

【新病棟の建設に着手しました】



病院長 森田 陸司



当ニュースが発行されている頃には、既に滋賀医大病院のあちこちで、工事の槌の音が響き始めている事と思います。

長年の悲願であった病院再開発計画は、新しい病棟（D病棟）と手術棟の増築だけでなく、病院の全面的な改修です。

病院正面から中央廊下の突き当たりの、D病棟から工事が始まりました。D病棟は平成19年度末に完成し、その2階に整形外科と泌尿器科、3階に循環器内科と心臓血管外科、4階に消化器外科と乳腺・一般外科、5階に眼科、脳神経外科と神経内科の病床が移転し、琵琶湖と周囲の山々の展望の利く6階には一般食堂と職員食堂が置かれます。

工事中は患者さま方に大変ご迷惑とご不便をお掛けすることと思っておりますが、ご迷惑を最小限にする最大の努力を致す決意です。どうぞ、ご容赦とご協力をお願いいたします。

工事に伴って、四季の花や緑、池の鯉など、これまで皆さま方に親しまれて来ましたC病棟北西の緑の広場が、工事現場となってしまうのが、大変残念です。全ての樹木は、医学部附属図書館の東の広場に移植されて、患者さま方の散策の場として改めて改修される事になっております。

D病棟の完成に続いて、C病棟の改修工事は平成20年度末に完了し、平成21年度にB病棟、A病棟、中央診療棟と外来棟の改修工事がなされる予定です。その間、新手術棟の新営工事が平成19～20年度に計画されています。

昭和53年に開院し、約30年後に初めて脱皮する滋賀医大病院は、新しい機能的な病院に生まれかわります。病院職員一同、病院の理念「信頼と満足を追求する全人的医療」の更なる実践に励む所存です。よろしくご支援、ご協力をお願いいたします。



【新病棟完成予想図】

滋賀医科大学附属病院で、産科オープンシステムの運用が開始されました



産科学婦人科学講座（産科婦人科）教授 野田 洋一

滋賀医科大学附属病院では、平成18年1月1日より産科オープンシステムの運用を開始いたしました。産科オープンシステムとは、診療所と病院とが連携してより安全性の高いお産を行う新しい仕組みです。入院や分娩施設を持たない診療所で受診や健診を行い、妊婦のリスク評価によりハイリスク妊婦と判断される方は、分娩時や異常時には病院で対応するシステムです。

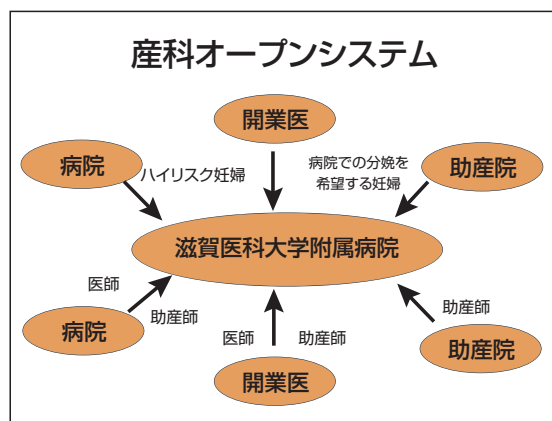
昨年末以来、産科オープン医、産科オープン助産師の登録を開始いたしました。現在では19名の医師と4名の助産師が登録しています。また、このシステムに乗った登録症例数は現在4例に上っています（2月末現在）。

全国の国立大学病院では初となる試みで、このシステムの導入には次のような背景があります。

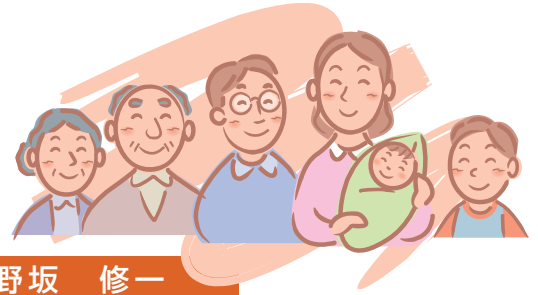
- 1) 晩婚化により、35歳以上の初産婦が増えてリスクの高い妊娠・分娩例が増加。また、少子化を背景に、個々の妊娠がきわめて貴重なものとなっている。
- 2) もともとリスクの高い生命誕生の過程である妊娠から出産まで、きわめて高い水準の安全を求めるようになってきている。
- 3) 予期せぬ事態が招来された場合に医事紛争になるケースが増え、産科医療にまつわる訴訟件数が増加。産科診療に従事すること自体がリスクの高い仕事に従事することになっている。
- 4) 産科専門医を目指す若い医師が減り、また、分娩の取り扱いを止める医療機関や、医師が増えてきている。

今回運用を開始した産科オープンシステムは、それぞれの医療機関の持っている診療機能に見合った産科症例を取り扱おうとするもので、いわば、医療機関の機能分担とする考え方がその根底にあります。

滋賀県という地域において、全ての母親ともに健やかにお産をしていただくためのシステムとして定着していくよう、努力したいと思います。



麻酔科からのお知らせ



麻酔学講座（麻酔科）教授 野坂 修一

【手術・検査麻酔】

麻酔科では、手術や検査に伴う痛みを感じないように麻酔を行っており、新生児から老人までの幅広い年齢層の患者さまの麻酔を担当しております。また、麻酔科認定病院として、麻酔科専門医、指導医の下に麻酔を行っています。

麻酔を受けられる患者さまに対しては、麻酔に関する説明書に基づいて説明を行っておりますが、麻酔のことをより良く理解していただくために、今回この説明書を一層分かりやすい内容に改定しました。さらに、患者さまのプライバシーに配慮した麻酔専用の部屋を確保し、麻酔の説明を充実し、一般患者さん用の麻酔のビデオを閲覧できるように検討しております。また、麻酔ばかりでなく、術後の痛みにも注目しております。

この他、救急救命士の病院での気管挿管実習においても、滋賀県全域から受け入れて、専門医の厳重な指導と責任のもとで実施しています。

【ペインクリニック】

一方、麻酔科ペインクリニックは、神経ブロック療法を中心に様々な投薬治療を組み合わせ、痛みの治療を行う部門で、滋賀県の拠点病院として中心的役割を行っております。X線透視下の神経ブロックは、関西地区で有数のペインクリニック部門となっています。また、椎間板ヘルニアに対する椎間板内高周波減圧術については、日本で最初に導入しました。椎間板性腰痛に対する椎間板内高周波熱凝固法を多くの患者さまに提供し、全国でも有数の大学附属病院になっております。

こういった取り組みをさらに進めていくために、ペインクリニックセンターの看板を掲げることになりました。ペインクリニックの認知度を高めるために、講演会、又、ラジオ番組に出演し、啓発活動を進めています。そして今後は更なる診療の充実を目指していきたいと考えております。



ペインクリニックセンター外来



様々な高周波熱凝固装置

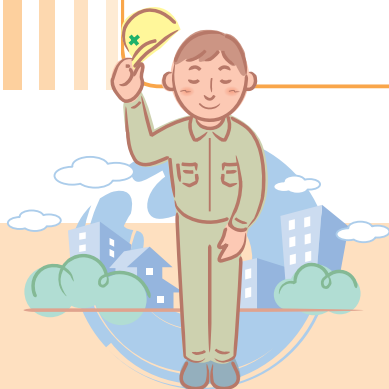
新病棟建設工事のお知らせ

病院再開発推進室

平成18年2月より着工しましたD病棟建設工事の本格化に伴い、3月からC病棟裏への出入口が閉鎖され、庭園への立ち入りができなくなりました。また、建設工事の期間中は、工事用車両の進入や騒音、振動が発生することがあります。

患者さま、家族のみなさま方には、大変ご不便、ご迷惑をおかけすることとなりますが、工事施工にあたりましては万全を期して極力ご迷惑がかからないよう努力いたしますので、何卒ご理解の上、ご協力をお願いいたします。

D病棟完成時期：平成19年度末（予定）



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第10号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

●理念を実現するための基本方針

- 患者さま本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します